

Ⅱ－４ 山形新幹線について

山形新幹線(福島～山形)プロジェクトは、奥羽本線福島～山形間に新幹線と同様の標準軌レールを敷設し、奥羽本線と東北新幹線の直通運転(新在直通運転)を行うことにより、新幹線の便益を県内に広く波及させることを目的に実施され、平成4年7月に開業した。

さらに山形新幹線新庄延伸プロジェクトは、県土の一体化を促進し、本県の均衡ある発展と地域社会の活性化を図る上で、県政の最重要課題であると認識し、平成5年7月に県の重要事業に掲げて以来、県のみならず官民一体となりその早期実現にむけて、全力を挙げて取り組んできた結果、平成9年2月に県とJR東日本において事業化合意が成立し、同年5月着工、平成11年12月4日に開業した。

参照 「山形新幹線プロジェクト推進の記録」、「山形新幹線新庄延伸プロジェクトの記録」

(1) 山形新幹線(山形以南)の事業スキーム

○ 事業主体 山形ジェイアール直行特急保有株式会社

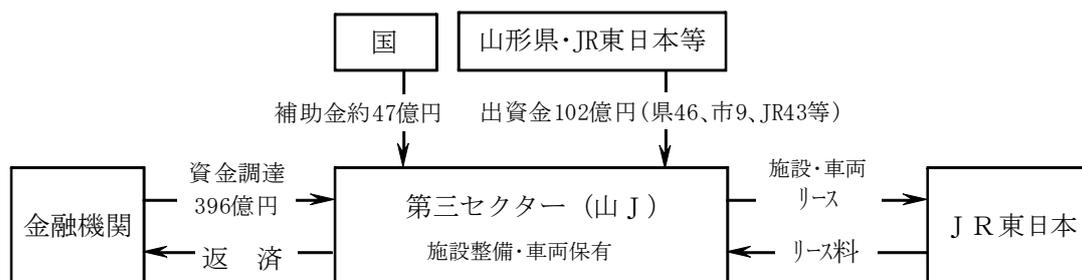
○ 事業費 福島・山形間(87.1km) 520億円

(地上工事費318億円、車両費202億円)

(平成7年車両増設に伴い、追加出資：県(10億円)・山形市(2億円)

最終事業費 559億円)

○ 事業スキーム図



○ 県出資：S63.H元.2.3各年度6.75億円 計27億円

H7年度10億円追加出資 合計36億円

(別途企業会計より10億円の出資有 県分総出資額46億円)

○ 借入金

・ 返済原資：JRからの「つばさ」車両リース料、施設使用料

※車両については、H22年度でリース終了

○ 山形ジェイアール直行特急保有株式会社の解散

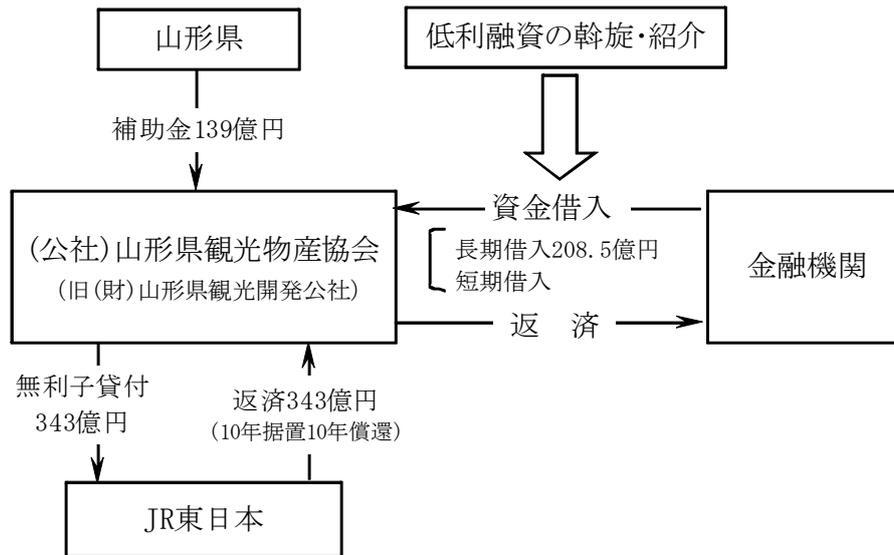
・ H30.3末 リース期間満了に伴い、鉄道施設をJR東日本に譲渡。同日付で会社解散

山形新幹線プロジェクトの主な経緯

- 61. 12. 9 「新幹線直行特急早期実現期成同盟会」の設立総会・促進大会の開催
- 62. 8. 26 運輸省は、大蔵省に対し、新幹線直行特急構想の具体化に向けた「在来線活性化対策事業費」を概算要求
- 10. 5～12. 25 知事等が、内閣総理大臣、大蔵大臣、運輸大臣、自民党三役、県選出国会議員に対し、政府予算化の陳情
- 12. 28 運輸省要求の「幹線鉄道活性化事業費」が昭和 63 年政府予算に内示
- 63. 2. 9 昭和 63 年度県当初予算案知事査定後の記者会見において、第三セクターの設立日程（4 月目途）、出資金の総額及び配分等を公表
 - 3. 19 県出資金について、昭和 63 年度県予算に計上
 - 4. 7 「幹線鉄道活性化事業費」を盛り込んだ国の昭和 63 年度予算成立
 - 4. 8 山形ジェイアール直行特急保有(株)設立発起人会開催
 - 4. 28 山形ジェイアール直行特急保有(株)設立総会開催
 - 8. 25 起工式（山形駅前広場）
- 11. 16 JR 東日本東北工事事務所「山形工事区」開設
- 12. 8 山形車両基地改良工事着工
- 元. 2. 3 福島駅新幹線高架橋取付部基礎工事着工
 - 2. 17 山形駅ホーム延伸工事着工
 - 4. 1 JR 東日本東北工事事務所「福島工事区」開設
 - 6. 29 新幹線直行特急試作車両発注契約
 - 8. 10 JR 東日本及び山形ジェイアール直行特急保有(株)が、新幹線直行特急の試作車両の概要について発表
- 2. 4. 10 奥羽本線庭坂～板谷間軌道改良工事着工
 - 7. 30 新幹線直行特急の線区愛称名が「山形新幹線」に決定
 - 9. 18 奥羽本線福島～山形間複線区間片側 1 線標準軌化工事着手
- 11. 6 試作車両一般公開（山形駅構内①ホーム）
- 11. 14 奥羽本線庭坂～板谷間で試作車両試験運転（11. 14～11. 20）
- 3. 1. 22 山形新幹線試作車両と東北新幹線車両の分割併合試験
 - 1. 23 併合走行試験（仙台～北上間）
 - 1. 31 併合走行試験（仙台～大宮間）
 - 2. 25 JR 東日本が山形新幹線試作車両による高速走行試験開始（上越新幹線高崎～燕三条間）
 - 3. 26 山形新幹線試作車両が国内鉄道最高速度記録達成（336km/h）
 - 7. 17 山形新幹線量産車両発注契約
 - 8. 27 奥羽本線福島～山形単線区間標準軌化工事着手
米沢（関根）～上山間バス代行輸送開始
 - 9. 19 山形新幹線試作車両が国内鉄道最高速度記録更新（345km/h）
- 11. 5 奥羽本線福島～山形間標準軌片側 1 線幹線により標準軌仕様ローカル列車（719 系）運行開始
- 12. 9 山形新幹線列車名が「つばさ」に決定
- 12. 24 山形新幹線ダイヤ概要発表
- 4. 1. 30 山形新幹線量産車両公開（山形車両基地）
 - 2. 1 奥羽本線庭坂～山形間で量産車両による耐寒耐雪試験実施（2. 1～2. 28）
 - 3. 5 JR 東日本が、山形新幹線の 7 月 1 日開業と、新幹線ダイヤを発表
 - 3. 9 JR 東日本が、運輸省に対し山形新幹線料金に係る申請
 - 5. 7 福島駅構内において東北新幹線と山形新幹線のレールが連結される
 - 7. 1 山形新幹線開業
- 30. 3. 20 山形ジェイアール直行特急保有(株)臨時株主総会（会社解散決議）
 - 3. 31 山形ジェイアール直行特急保有(株)解散

(2) 山形新幹線新庄延伸事業スキーム

- 事業主体 東日本旅客鉄道株式会社
- 事業費 山形・新庄間(61.5km) 343億円
(地上工事費278億円、車両費65億円)
- 事業スキーム図



- 県補助金： H9年度57.5億円 H10年度42.5億円
H11～14年度各8.5億円計34億円
H15年度5億円 合計139億円
- 借入金については平成22年度より返済開始、令和元年度完済
(JRから協会に対する返済は平成20年度開始)

新庄延伸プロジェクトの主な経緯

平成4年7月	山形新幹線（福島～山形間）の開業
5年7月	平成6年度山形県重要事業に“延伸”を採択
6年1月	山形新幹線新庄延伸推進会議設立（構成：県、沿線市町村、関係民間団体）
9月	「山形県在来線高速化検討委員会」発足（構成：国、JR、学識経験者、県）
7年12月	山形新幹線の7両編成化
8年1月	イベント列車「1本でつながる北の夢号」の運行
3月	「山形県在来線高速化検討委員会報告書」提出 「山形新幹線新庄延伸沿線地域開発推進計画」策定
4月	「山形・新庄間在来線高速化事業連絡調整会議」設置
9年2月	イベント列車「未来へつなぐ夢のつばさ号」の運行
2月21日	●JR東日本と事業化合意
5月1日	●事業着手（平成9年度は主に設計・測量・支障物移転など） 建設工事着工・記念イベント開催
10年4月	●山形駅ホーム改築工事、新庄駅車両基地工事等の本格着手
10月27日	●単線運転化による山形・羽前千歳間の改軌工事開始
10月	●各停車予定駅の新築・改築工事本格着手（開業まで完成）
11年1月29日	●新型車両の発表
3月12日	●バス代行輸送開始（改軌工事本格着手） （朝夕ラッシュ時）山形～天童間：列車運行 天童～新庄間：バス代行輸送 （その他）山形～北山形間：列車運行 北山形～新庄間：バス代行輸送
4月2日	●ビッグワンダー（軌道連続更新機）発進式（新庄市）
7月1日	●バス代行輸送ダイヤ改正（全面バス代行） （全日）山形～北山形間：列車運行 北山形～新庄間：バス代行輸送
9月24日	●新ダイヤ発表
10月12日	●新庄延伸工事レール締結式
11月14日	●試運転開始
12月4日	●開業